

服部先生の急逝を悼む

梅 村 義 雄

目を閉ずれば、学生服姿の美少年、服部功君が髣髴とします。三十数年前、故人が戦後新制中学として発足間もない中京中学に入学されてより、中京高等学校を経て、中京大学の第一回の卒業生となられ、母校中京商業高等学校で教鞭を執られ、後、中京大学の体育学部に移り、白髪の目立つ中年に至るまで、そこには数限りない思い出があります。

思うに服部先生の歩まれた道は、中京大学の発展そのものであり、その発展に寄与された功績は偉大なものがあります。誕生間もない体育学部にあって、学部成長の一端を担うとともに、厚生関係の仕事も担当され、学生の生活を実によく世話されていました。

わけでも卓球部の指導に当っては、卓球世界一の小和田敏子選手をはじめ、多数の名選手を育成したことは周知のことです。卓球一筋の先生の御生涯は、単に中京大学の卓球部を育てることのみにとどまらず、日本卓球連盟の常任理事として日本の卓球を世界のトップレベルにまで高めることに大きく貢献されました。このような先生の偉大な御功績に対して、心から敬意を表す次第であります。

御葬儀に際しても、実に会葬者が多い盛大なものであったことは、服部先生の生前の交際がいかに広いかを物語ると同時に、いかに多くの人の面倒をみられたかを物語るものであります。学生はもとより、同窓生、大学教職員から、いかに慕われていたかを物語るものであります。

体育会の会長の職にあります私としては支柱とも頼る服部先生の急逝によって大きな打撃を受けたことは否定し得ません。しかし、先生が卓球一筋に打ち込まれた「真剣味」の姿は、我々体育会の鑑であり、このスポーツに対する直向な情熱は、我が体育会の伝統の中に生きています。我々はこの伝統を堅持し、中京の名を天下に高からしめることが、先生への何よりの供養であると信じます。

衷心より服部功先生の御冥福を祈ります。